

防除情報(病害虫情報 号外 第2号)

令和2年4月6日
神奈川県農業技術センター

令和2年度イネ縞葉枯病の発生予想と防除について

1月10日～2月10日に県内10地点の水田でヒメビウンカ越冬世代幼虫を採集し、イネ縞葉枯病ウイルス(以下「RSV」)の保毒虫率を調査しました。その結果、10地点すべてでRSV保毒虫を確認し、平均保毒虫率は5.2%(図1)であり、2014年から高い傾向が依然として続いています。

1月10日～2月10日に県内15地点の水田でヒメビウンカの越冬世代虫密度を吹き出し法により調査した結果、平均密度は31.1頭/9㎡であり、平年比「やや少」でした(図1)。

ヒメビウンカの越冬世代密度はやや少ないものの、RSV保毒虫率が高いため、本年の水稲作本田におけるイネ縞葉枯病発生量は、平年に比べてやや多くなると見込まれます。

[防除]

水稲生育初期にRSVに感染すると被害が大きくなります。このため、ヒメビウンカの水田飛来によるRSV感染と水田内での感染拡大を抑制するため、ウンカ類に効果のある育苗箱施薬剤(殺虫剤)を施用してください。

また、薬剤選択に際しては、ツマグロヨコバイにも適用のある薬剤を優先してください。

田植前および作期を通して、RSVの寄主植物やウンカ類生息場所となり得る水田周辺の雑草の除草を徹底してください。また、本田防除は、育苗箱施薬剤の効果が低下する時期に、農業技術センターの病害虫情報等を参考にヒメビウンカの発生状況を把握し、適期に防除を行ってください。

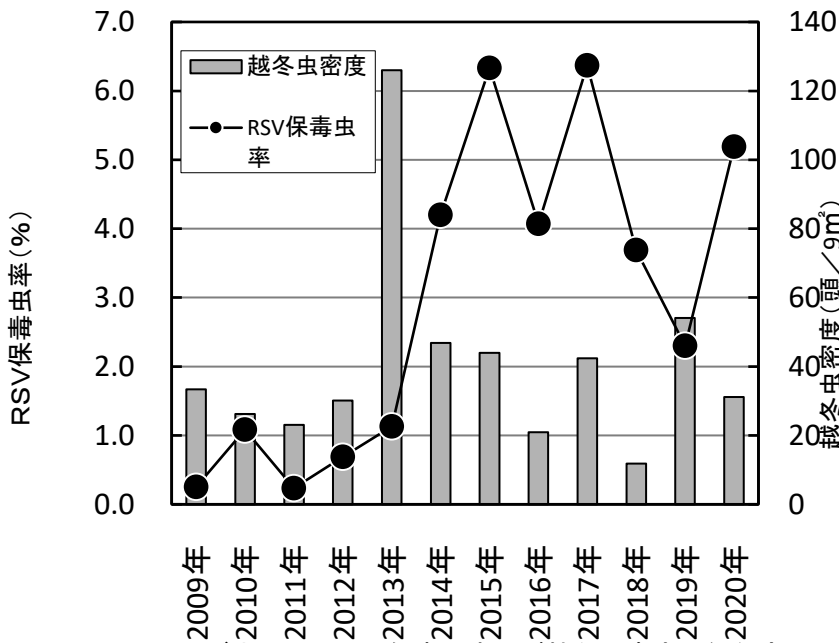
[防除薬剤例]

【育苗箱施薬剤】

薬剤名	使用時期	使用回数	使用量	ツマグロヨコバイ適用
アドマイヤーCR箱粒剤	は種時(覆土前)～移植当日	1回	50g/箱	あり
グランドオンコル粒剤	移植3日前～移植当日	1回	50g/箱	あり
ツインターポフェルテラ箱粒剤	は種時(覆土前)～移植当日	1回	50g/箱	あり

【本田施薬剤】

薬剤名	使用時期	使用回数	使用量	ツマグロヨコバイ適用
アルバリン粒剤またはスタークル粒剤	収穫 7日前まで	3回	3kg/10a	あり
トレボン粒剤	収穫21日前まで	3回	2～3kg/10a	あり



病害虫防除部 TEL0463-58-0333
インターネット
<http://www.pref.kanagawa.jp/docs/cf7/cnt/f4500002/>
○農業使用の際は、必ずラベルの記載

図1 ヒメビウンカのRSV保毒虫率及び越冬虫密度の経年変化